

松山駅周辺先導的都市環境形成計画
計画書
(概要版)

平成 25 年 3 月

松山市

はじめに

地球温暖化は、21世紀の世界共通の課題であり、その原因物質である温室効果ガスを削減することが、中長期的な施策の中で求められている。特に都市活動に起因して発生する二酸化炭素は、全排出量の約50%を占めており、街づくりの具体的な取り組みの中で削減していくことが重要である。

JR松山駅周辺地区では現在、JR松山駅付近の連続立体交差事業と、松山駅周辺地区区画整理事業が並行して実施されており、県都松山の陸の玄関口にふさわしいまちづくりが進められている。松山市では、この機会をとらえ「集客・集住・コンパクト」を目標に掲げ、交流人口増大、都心居住者の増大による都心部の賑わい回復とともに、低炭素型の環境に配慮したコンパクトな都市づくりに取り組んでいる。

本計画書は、この目標を達成するため、JR松山駅周辺地区として取り組むべき環境まちづくりの基本方針と、具体的な施策、計画目標を定めたものである。今後、当該地区での取り組みが松山市全体において、先導的な役割を果たすよう、市民・事業者・行政が一体となってまちづくりを推進していく必要がある。



松山総合公園から松山城方向を臨む。中央がJR松山駅周辺地区

目次

はじめに

1. 地区の立地特性・課題等	2
(1) 現状と課題	
(2) 都市計画等における位置づけ	
2. 都市環境対策基本方針	6
3. 先導的都市環境形成計画対象地区の範囲	7
4. 環境負荷削減対策の概要	8
5. 環境改善の目標	24
(1) 二酸化炭素削減の全体シナリオ	
(2) 二酸化炭素削減量目標の設定	
(3) 基本方針実現に向けた、二酸化炭素排出量以外の目標	

1. 地区の立地特性・課題等

(1) 現状と課題

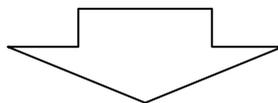
今後取り組むべき都市環境対策における基本方針を定めるため、地域特性を踏まえた現状と課題を整理した。

(現状)

- ・ 松山は、年間 2000 時間を越える日照時間と温暖な気候のため、この特長を活かした松山サンシャインプロジェクトが実施されている
- ・ 温暖少雨な瀬戸内海式気候のため、水資源が貴重であり、節水や水循環利用が求められている
- ・ 都心地区は、松山城を中心とするエリアを囲むようにして市街化が進んでおり、比較的コンパクトな市街地が形成されている
- ・ 都心地区では路面電車やバス等の公共交通利用率が高く、自転車利用率も高い
- ・ 中央浄化センターの下水処理水等、計画地近傍に未利用エネルギーが存在する
- ・ JR 松山駅周辺地区を中心に区画整理事業が実施され、交通等都市基盤施設と建築物が更新される大規模な面的開発が行われている

(課題)

- ・ 県都松山の陸の玄関口として、交通の要所ではあるが、街の顔にふさわしい都市機能の集積がない
- ・ 城山公園等による中心地区に緑地はあるが、都心部の緑は少ない
- ・ 駅周辺地区に隣接する市街地には、建替え更新時期を迎えている老朽建物が多い



J R松山駅周辺地区における大規模な面的開発事業の機会をとらえ、地域の気候、風土の特徴を活かした、まちづくりを進める必要がある。

(2) 都市計画等における位置づけ

本計画は、第6次総合計画基本構想におけるまちづくりの目標の一つである、「緑の映える快適なまち（環境・都市）」の理念に基づき、交通・エネルギー・みどり各分野に関連する充実した既往調査・計画の検討成果を踏まえ、駅周辺地域の低炭素化に向けた取り組みについてより具体的な検討を行い基本方針と望まれる施策を提示するものである。

目標設定にあたっては「松山市低炭素社会づくり実行計画」に定められた市全体の目標や「新エネルギービジョン」、「省エネルギービジョン」、「松山市総合交通戦略」等におけるCO2削減に向けた検討成果を踏まえ、整合性に配慮しながら検討を実施している。

また、土地区画整理事業や再開発など、駅周辺のまちづくり検討と、将来像の整合に配慮しながら検討を進め、今後計画の実践に加えて、地元組織によるまちづくり検討の深度化にもつながるよう、ガイドライン等に反映する内容として議論されるものとなることを考慮して取りまとめている。

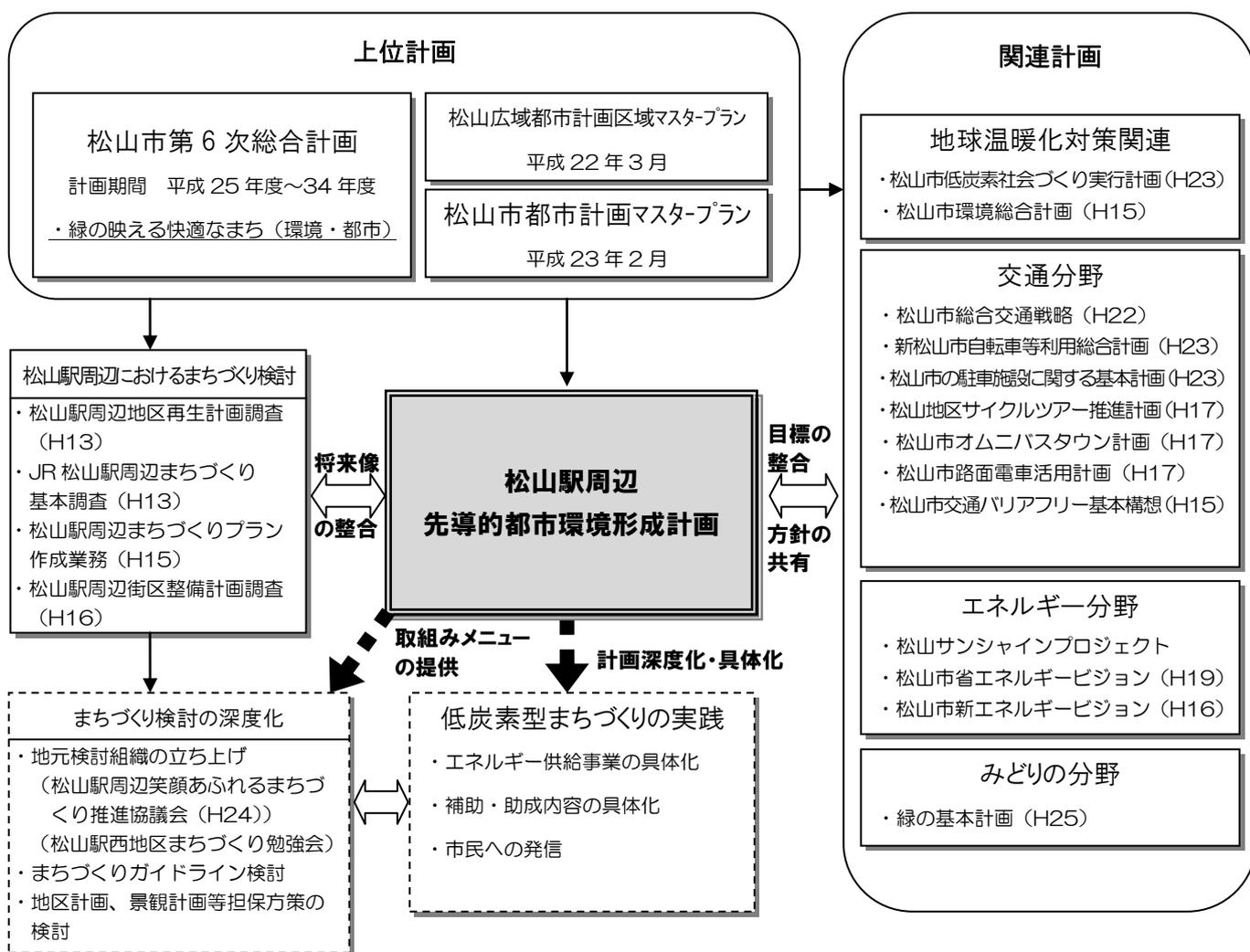


図 1-1 松山駅周辺先導的都市環境形成計画と上位計画・まちづくり・関連計画との関係

(松山市低炭素社会づくり実行計画における数値目標)

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき松山市が定めた『松山市低炭素社会づくり実行計画（区域施策編）』において、

- ・中期目標（2020年時点）：1990年比18%削減
- ・長期目標（2050年時点）：1990年比60～80%削減という目標を掲げている。

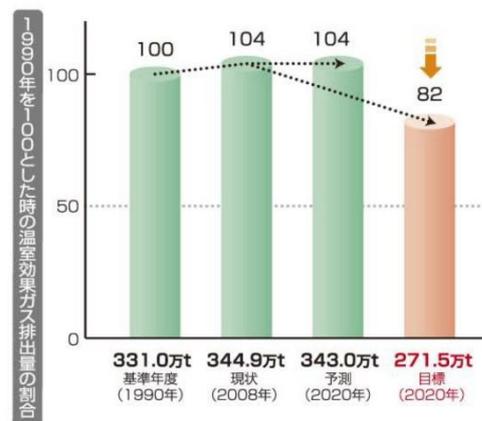


図1-2 松山市の温室効果ガス排出量の目標
(出典:松山市低炭素社会づくり実行計画)

(松山駅周辺地区で実施されている主要事業)

計画策定地区周辺で実施されている主要事業は以下のとおりであり、本計画で定められた施策は、これらの都市計画事業と関連して進められることになる。

- ・松山駅周辺土地区画整理事業
- ・JR松山駅付近連続立体交差事業
- ・街路事業
- ・市街地再開発事業（計画）

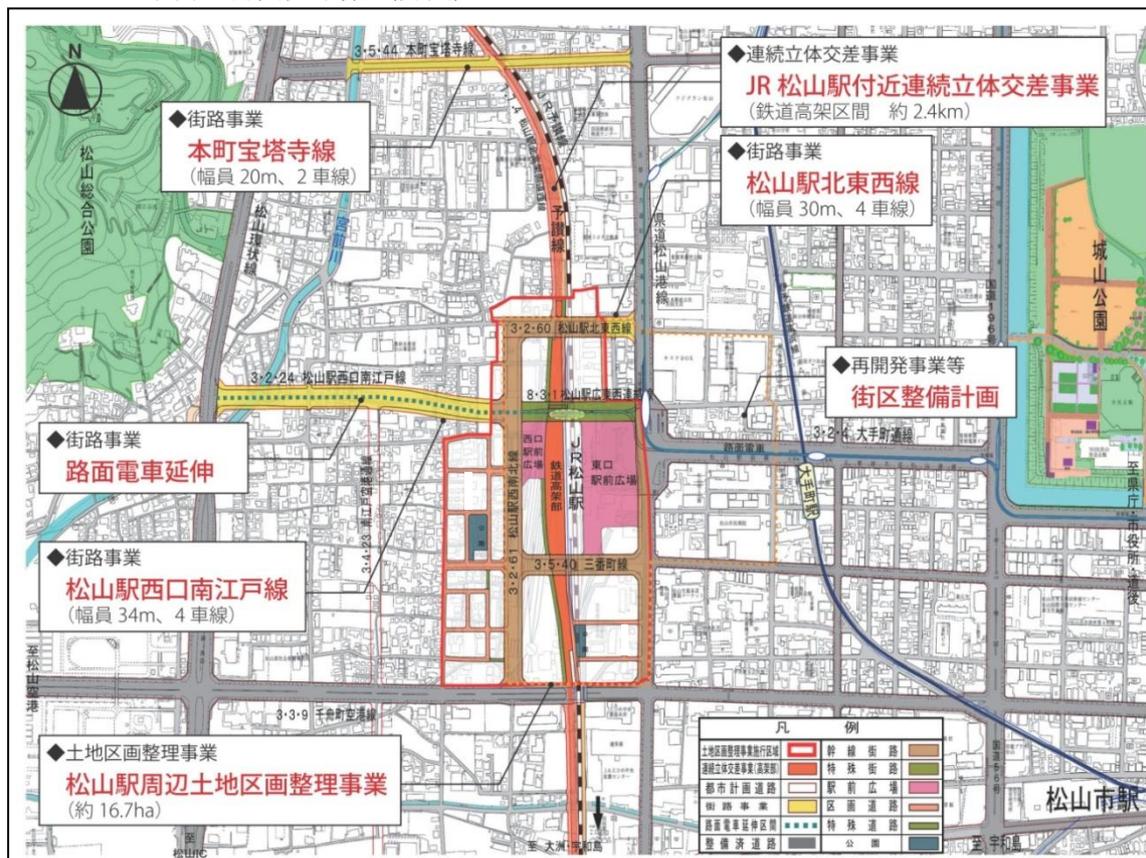


図1-3 松山駅周辺地区近傍の主要事業

(松山駅周辺土地区画整理事業の想定スケジュール)

本地区の中核となる JR 松山駅周辺においては、交通結節機能の強化や東西交通の利便性向上、魅力ある都心居住環境の創出等を目的として、JR 松山駅付近連続立体交差事業と一体的に、土地区画整理事業が現在進められている。平成 20 年に都市計画決定・事業認可がなされ、平成 24 年度は、車両基地の西側市街地を第一期として工事に着手している。最終的には地区全体で平成 32 年度を目標として事業完了を目指している。

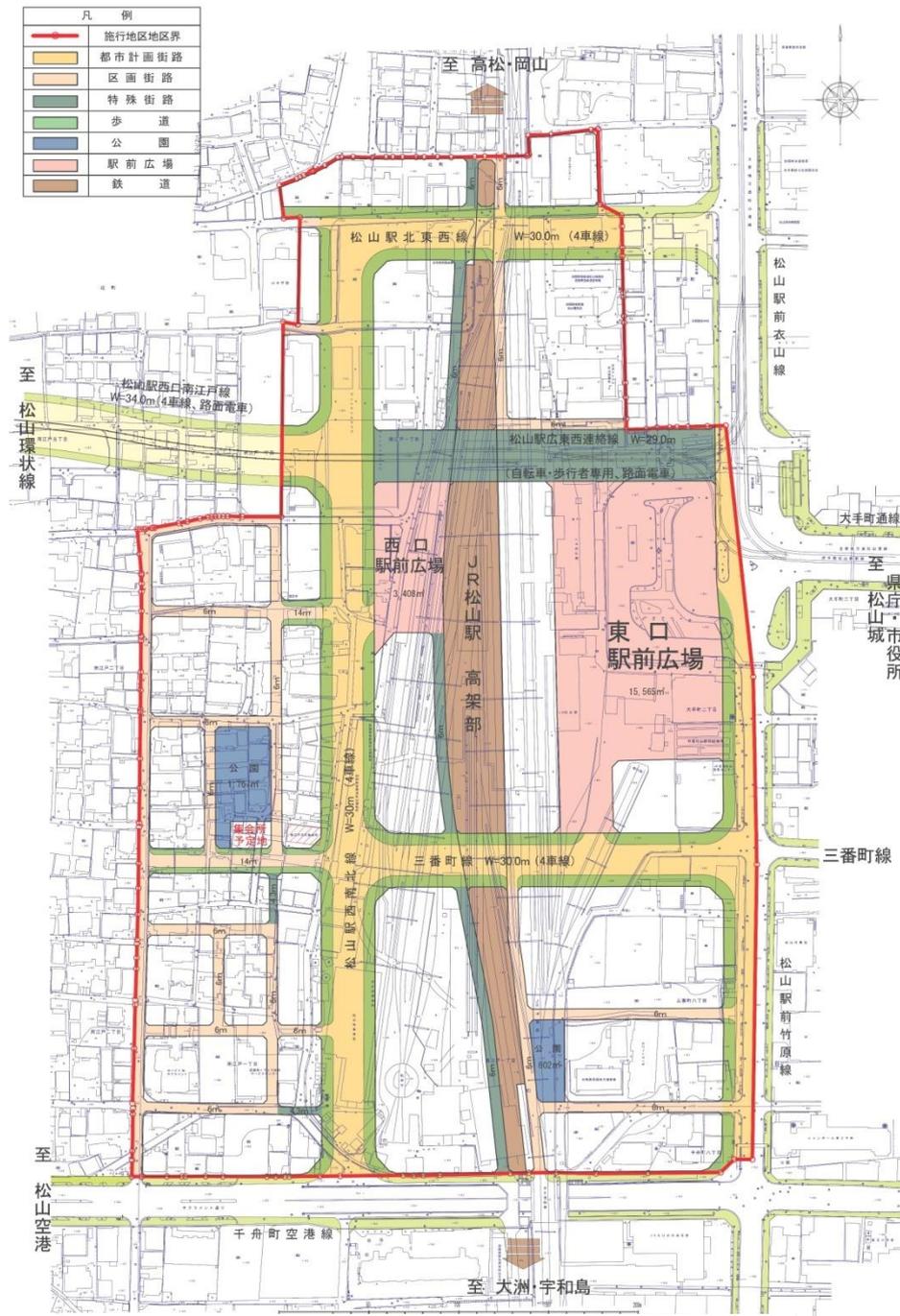


図 1-4 松山駅周辺土地区画整理事業 事業計画図

2. 都市環境対策基本方針

前述した現状と課題をふまえ、エネルギー分野、都市構造・交通分野、みどり分野の3分野にわたる総合的な低炭素型まちづくり施策として、以下の6項目の基本方針を定める。

基本方針1 サンシャインプロジェクトのさらなる展開

松山サンシャインプロジェクトの重点モデル地区として、JR松山駅周辺地区で太陽光発電や太陽熱利用を集中的に展開する。

基本方針2 多様なエネルギーの面的利用システムの導入

防災拠点としての広域的な役割を本地区が担うことも視野に入れた上で、今後の建物開発動向に応じて、建物間熱融通や冷房排熱を利用した地域冷暖房等、多様なエネルギーの面的利用システムの導入を目指す。長期的には、近接する中央浄化センターの下水処理水の利用可能性を検討する。

基本方針3 交通結節拠点周辺における集客・集住のまちづくり

松山駅周辺土地区画整理事業の実施や、伊予鉄市内電車沿線におけるまちづくりの展開等により、交通拠点周辺において、住宅や生活利便施設、集客施設等が集積したまちづくりを目指す。

基本方針4 低炭素型交通手段への転換

伊予鉄市内電車延伸による利用圏域拡大や交通結節機能の向上、自転車・電気自動車の利用推進など、低炭素型の交通手段への転換を目指す。

基本方針5 緑豊かで涼やかな市街地の形成

まちの顔となる駅前広場の緑や松山総合公園から城山公園に至るシンボルロードの緑をネットワークすることによって、都市の骨格となる緑をつくり、風の道を誘導する。公共の緑と連動して、民地内の緑地を誘導する。

基本方針6 低炭素まちづくりのショーケース化

地区内関係者へのPRはもとより、地区内で実施する環境配慮の先導的取り組みを地区外に波及させるため、JR松山駅周辺地区を松山市全体の低炭素配慮型街づくりのショーケースとなるよう、市民への普及啓発、先導的取り組みの見える化¹を推進する。

¹ 見える化… 可視化しにくいもの(例:CO2排出量削減効果等)を可視化すること。

3. 先導的都市環境形成計画対象地区の範囲

対象地区は、松山駅周辺土地区画整理事業区域（約 16.7ha）に路面電車延伸部（松山駅西口南江戸線・大手町通りを加えた範囲を基本として、この地区内における計画実施時の趨勢値 CO2 排出量を算出し基準値とした。この基準値に対して、各種対策を実施した後の削減量を計画目標値として定めた。

取組み施策の検討にあたっては調査対象範囲である約 100ha に存する未利用エネルギー、再生可能エネルギー等の活用、周辺施設との連携可能性について考慮しながら進める。

また、松山駅西口南江戸線・大手町通り沿道市街地や、将来的に再開発の検討がなされる可能性がある街区整備計画区域は、本計画の対象区域と関係が深く、将来的に取組みが波及し、展開していくことが考えられる区域である。

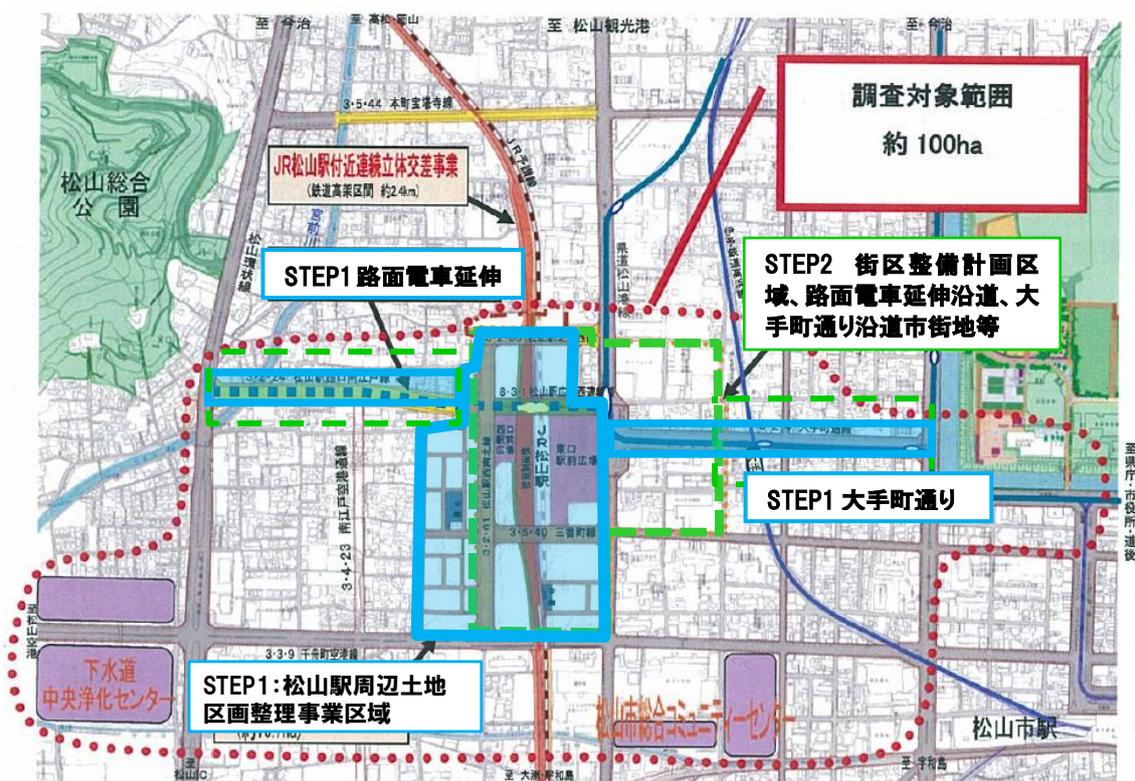


図 3-1 計画対象範囲図